

令和3年度 第1回地域家庭教育推進会津ブロック会議

1 開催日 令和3年6月29日（火）14:20～17:00

2 会場 会津若松合同庁舎 新館2階大会議室

3 出席者（敬称略）

鶴見 常夫	会津坂下町 行政相談委員会津地区理事
齋藤 敏浩	会津若松市父母と教師の会連合会会長
佐藤剛太郎	北会津地区PTA連絡協議会会長
武田 剛	両沼地区PTA連絡協議会会長
石本 浩一	北会津小中学校長連絡協議会会長
池内 静	学校保健会北会津支部養護教諭部部长
秋山 理恵	秋山ユアビス建設執行役員新事業推進室室長
遠藤由美子	会津若松市教育委員会生涯学習総合センター（家庭教育担当者）
安部久美子	猪苗代町教育委員会生涯学習課（家庭教育担当者）
五十嵐美保	会津坂下町教育委員会生涯学習班（家庭教育担当者）
花積めぐみ	会津保健福祉事務所専門保健技師
宮盛 達雄	会津地区社会教育指導員連絡協議会会長
増子 恵二	会津さざなみの会会長
幸田久美子	喜多方市家庭教育支援チーム“もも”代表
紫藤眞理子	西会津町家庭教育コーディネーター
星 佳子	西会津町家庭教育支援員
※（事務局）	会津教育事務所 6名

4 開催趣旨

この会議は、会津地域の家庭教育の現状と課題を把握し、課題解決に向けた実践活動を推進するため、各都市PTA連合会・学校代表・企業代表・地域代表による協議を行うものです。

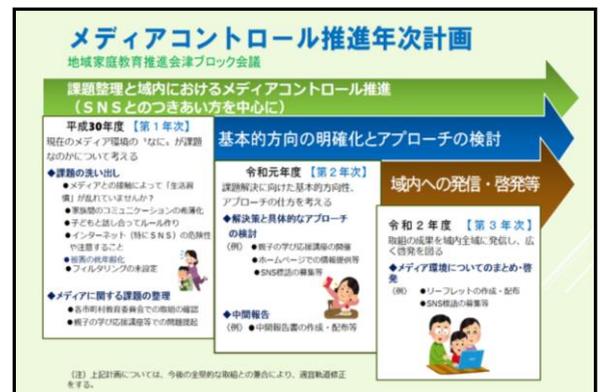
昨年度まで、「メディアコントロール（SNSとのつきあい方を中心に）」をテーマに協議し、まとめの年として「会津版スマホ・SNS検定」を作成いたしました。今後も域内に広く発信し啓発していきます。

今年度から家庭教育における不登校支援をテーマに支援方法について話し合っていきます。今年度1年目は、課題の洗い出しと整理を行い域内における予防開発的な不登校支援の在り方について話し合っていきます。

5 内容

(1) 【令和2年度までの取組】 ○成果 ●課題

- 「会津版スマホ・SNS検定」を作成することができた。本会議で協議してきた成果を形にして残すことができた。今後も周知活用を図り、継続して取り組む見通しを持つことができた。
- 次年度から3年次計画で「家庭教育における不登校支援」に取り組んでいくことについて共通理解を図ることができた。
- 地域・学校・家庭の連携がますます必要になる。それぞれがどのようにメディアコントロールの啓発や不登校対策に取り組んでいくのか等、今後の方向性や方策について継続して話し合う必要がある。



(2) 【問題提起】

平成27年度から令和元年度までの不登校出現率を見ると日本全国、福島県、会津地域とも増加している。特に会津地域では、不登校の出現数は、日本全国、福島県と比べても多いというのが現状である。

これは、学校だけの問題ではなく、家庭の教育力の低下や地域コミュニティの低下もその1つの要因と捉えた。そこで、家庭の教育力を支援し、地域で協力しながら、不登校児童や生徒を支えていけば、出現数は少しずつ減らせるのではないかと思う。

会津ブロック会議では、家庭・地域・学校でつながる家庭教育～親子が元気になる家庭教育を目指して～を目標に、家庭を支える支援の在り方を話し合っていたい。

不登校になった子と親の心情を伝える動画視聴（三兄弟バンド「一途」の歌とイラスト）から家族へ支援することで、不登校になった児童もエネルギーがたまり、よい方向へ進んでいくのではないかと捉えた。

家族をどう支援していくのか5つの視点をもって話し合いたい。

- ① 子どもへの家族の関わり方
- ② 不登校について実態と支援の仕方を勉強する。
- ③ 関係機関との連携
- ④ 地域との連携、コミュニケーション
- ⑤ 家庭教育支援チームの取組

(3) 【協 議】

【会津の不登校の現状】

会津教育事務所 指導主事 本多 康夫

- ・ 不登校の定義、会津域内の不登校の現状
- ・ 不登校支援の手立て（支援計画）
- ・ 不登校支援の実践例（SSR）居場所づくりや学習機会の確保や将来的な自立を目指す
- ・ 学校の支援体制（安心感のもてる環境、自己決定や自己選択）



【不登校支援の取組】

会津若松市立第六中学校 養護教諭 池内 静 氏

- ・ 今までの勤務校について
- ・ 最近の生徒の様子から感じること
- ・ ドリームマップの紹介（授業参観で保護者への理解）
- ・ 職員組織での対応の重要性
- ・ 今後の課題 学校や外部機関との連携



【会津自然の家での取組】

会津教育事務所 社会教育主事 菅井 公

- ・ 心のケアを必要とする子どもを対象とした事業「もっくんリフレッシュデー」の実施
- ・ 配慮事項として、利用団体が少ない時期に開催する、個人の趣味や関心に応じた活動プログラム（日帰りや部分参加も可能なスケジュール）など
- ・ 保護者のリフレッシュにもつながる



(4) 【全体会・まとめ】

【全体会】

- 私たちの町は人口の割に不登校が多い。ICT が整備されているので、何時に登校するかなどもやりとりしている。保護者から、軽度発達障害など子育ての相談も行う。外部機関との連携（SC,SSW,民生児童委員等）や地域学校協働活動、CS も進んでいる。
- 保護者支援、学習支援をしている。小1～高3まで居場所づくりをしている。
- UD（ユニバーサルデザイン）を活用した交流を進めている。
- 不登校児童生徒は、ケースバイケースである。同じ親としてできることはないか。当事者の保護者へ情報提供できないか。

【まとめ】

不登校は様々な要因から起こりうる。家族との関わりや相談体制が大切である。多面的な試みで取り組みたい。

○ 第2回ブロック会議の視点

- ① 親子・家族相互の関わり方（日常の家族関係について）
- ② 不登校児童生徒の家庭の支援の在り方

職種を越えながら、知恵を出し合って課題を解決していきたい。



○成果 ●課題

- 参加者全員が、家庭教育会津ブロック会議の趣旨説明をもとに本県の家庭教育事業の概要について共通理解することができた。
- 指導主事（生徒指導担当）や養護教諭、社会教育主事の話を通して、会津の不登校の実態と課題、不登校支援の取組状況についてブロック委員に理解していただくことができた。
- 今後、不登校児童生徒がいる家族の支援に視点を当て、具体的な支援の取組について第2回のブロック会議で考えていくことを確認することができた。
- 不登校のケースは様々であり、話に出してよいのか戸惑う内容も含まれている。家庭のプライバシーを考慮しながら進めていく必要がある。
- 不登校は誰もがなる可能性がある。だから、支援が必要となった家庭に対して不登校支援の情報を提供していく必要がある。このことから必要な情報を誰もが受け取れることができる仕組みを考えていきたい。